

ビジネス基礎スキルとしての データの捉え方・判断力養成研修 – 研修内容 –

対象者

- これからデータを活用したビジネスのマネジメント業務に携わる次期リーダー
- データ活用の基本知識やスキル(考え方や思考法含む)を始め、データサイエンスに少し触れてビジネスに活かしたい方

BEFORE

数字やデータの読み取りに苦手意識アリ。これまでは、経験則や感覚で“なんとなく”データを扱い、意思決定や判断をしてきたが...



AFTER

- Excelを使った売上シミュレーションなど具体的なビジネスシーンを想定したケーススタディの実践と解説を通じて、ビジネス課題の解決に重要な「データや統計の適切さ・捉え方・見方を学び、自身の業務でもモデルとして利用できるようになる！」
- 「どのような視点やマインドでデータと向き合えばよいのか？」を理解することで、経験や感覚のみの意思決定から脱し、ビジネス現場でのより適切な判断につなげられるようになる！

～実際にご受講された方々の生の声～

全くの初心者で、今まで提供されたデータはそのまま鵜呑みにしていましたが、そもそもの目的を明確にした上で、データ取得／集計の適切性なども考慮することの重要性がわかりました。

食わず嫌い感があった、データへの意識が非常に前向きになりましたし、これから自分の経験と強みを生かして、さらなる追い風になる武器になるというのも実感がありました。

※2024年3月時点 内容が一部変更になる可能性もございます。

ビジネス基礎スキルとしての
データの捉え方・判断力養成研修

－ 研修内容 －



開催人数※	最低：10名～最大：100名
申込期限	研修実施初日 1ヶ月前
実施期間	3週間(計3回)90分/回 ※Day1のみオリエンテーション実施のため 105分
講 師	金森保智氏
事前課題	あり ※該当講師の Udemy講座の視聴が Day1までの宿題としてあります。
費用(税別)	10～20名：80,000円 / 名 21～100名：75,000円 / 名
受講環境	・PCと安定したネット回線 ※タブレットでのご受講や、VPNを接続した状態での受講は推奨しておりません。 ・ZOOMの利用(左記ツール利用が難しい場合別途、ご相談ください。) ・Microsoft Excel、Slidoの利用(必須)
お申し込み	営業担当までご連絡ください。
運営	講師、運営スタッフの一部(Teaching Assistant等)は業務委託契約を締結しています。

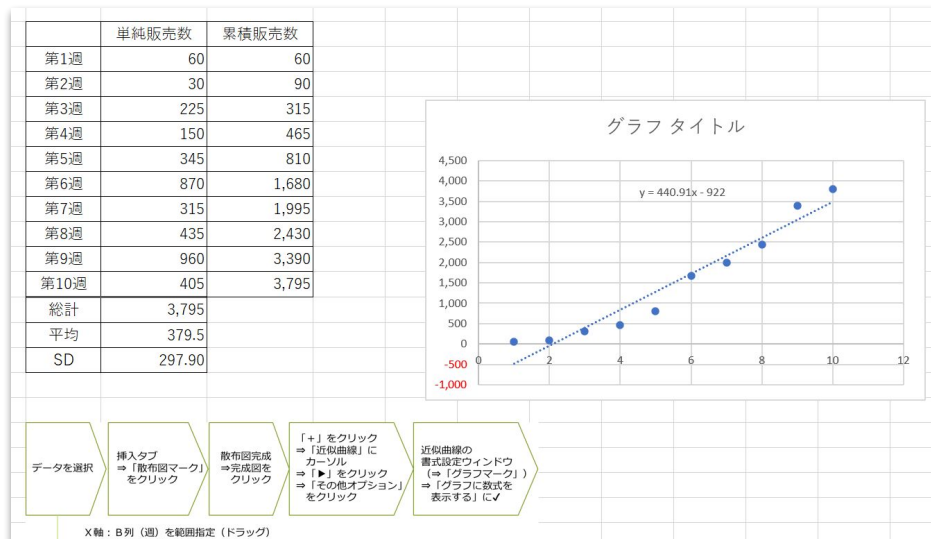
※開催人数におけるの『最低』の人数を最低催行人数とします。

※2024年3月時点 内容が一部変更になる可能性もございます。

ビジネス基礎スキルとしての データの捉え方・判断力養成研修 – 特徴pickup! –

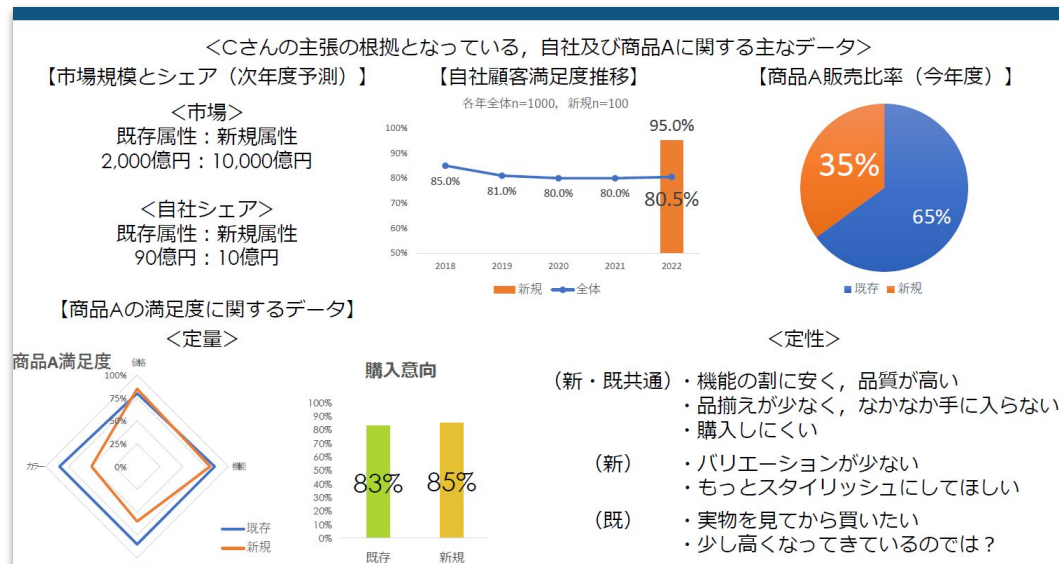
Excelを活用したデータの可視化をハンズオンで実践

データ活用の1つの有効な手法である「可視化」の知識・スキルを学びながら、
Excelを使って実際に売上予測を行うなど、
データをビジネス課題の解決につなぐポイントを学びます。



ケーススタディでデータを元にした判断を実践

「部下が提案してきた商品改訂案に対して、どのようにフィードバックするか？」など、具体的なビジネスシーンを想定した実践演習で理解を深めます。



数字やデータに苦手意識のある
若手・次期リーダーにこそオススメ



業務でデータを取り扱うが、専門的な方ではない人(例えば若手～中堅層)に是非おすすめしたいです。データ分析に関するマインドを身に着けて、ビジネスをリードしていけるようになったり、適切な判断・フィードバックができるようになると思います。

データ収集や確認をする前に、まずは仮説を立てたり評価基準を明確にすること、その重要性を今回の講義を受けて改めて理解することが出来たからです。また ケーススタディを活用 し、3日間を通じて 実務で活用する際のイメージが湧きました。

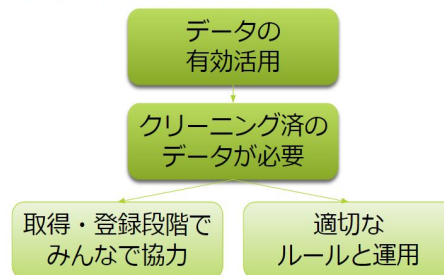
Day3のテーマを「**データクリーニング**」に変更することも可能です。ご興味のある方はご相談ください。

～大まかな流れ～

- ・冒頭: Day2宿題: (データクリーニング用のサンプルデータを使い、基礎統計量を算出)の答え合わせ
- ・講義: なぜデータクリーニングが必要なのか
- ・ワーク: 再度サンプルデータのエクセルを個人でクリーニング
- ・講義: データ活用のプロセスにおけるデータクリーニングの重要性について

第3回のポイント

＜データ活用にあたって必要となるデータクリーニング＞



狭義のデータアナリストの力だけに頼らない

「Q.どうやって?」という方のために データクリーニングに使えるExcel機能

＜利用可能な主なExcel機能_例＞

フィルタ

検索と置換

関数

全角から半角へ: 「=ASC (文字列)」
半角から全角へ: 「=JIS (文字列)」

ピボットテーブルも、エラーの変換度合いや数量チェックに利用可能
(利用できる方は、利用を検討してもよいのでは?)

データを集計する段階で、クリーニングを要しないような入力方法を検討して、データ収集を行う必要があると思いました。

